	ざし江戸へ行く。江戸に着いたきょう斎は、杉田玄白塾に通って勉
世界の学問を日本に広める	強を始める。その後、塾を吉田 長 叔 塾にかえ蘭学(オランダの学
たかのちょうえい	問)や医者になるために、治療と薬物研究をする。そして、一八二
聖長	二年(文政五年)九月には、長淑先生に言いつけられて、江戸から
	栃木県の日光、茨城県の筑波山を回り、病気治療に使う薬草を集め
高野長英は、医師・蘭学者(オランダ語の書物で医学・天文学な	ている。その努力が認められ、「塾の吉田先生から、医人として成
どの研究をした人)としても有名で、幕末の日本の社会や外交をよ	長したので、名前をきょう斎から長英に改めて呼ばれるようになっ
くしようと努力した人である。	た。」ことが、父あての手紙から知ることができる。
高野長英は水沢で	一八二三年(
ろの名は悦三郎と呼ばれた。十歳を過ぎた頃、興田村(今は一関市	は一生懸命看病しながら勉強に努めていたが、この年の五月二十日
東山町)という所で、おじいさんの元端と一緒に暮らすようになる。	亡くなる。長英は、亡き兄の遺骨遺品を届けながら、学費を送り続なる。長英は、 なせいこのいひん とど
おじいさんは医者の仕事をしながら村の子どもたちを集めて勉強を	けてくれた父の病気も心配し、十一月中旬に水沢の大畑小路の我が
教えていたが、やがておじいさんに代わってしばしば勉強を教える	家に帰る。しかし、病気で寝ていた父は、学業半ばで帰った長英に
こともあった。そして、十五歳になったときに元服(大人になった	「本当の長英なら今頃は江戸で盛んに勉学しているはず」と言い、
しるし)し、名をきょう斎と改めた。	会おうとはしなかった。三日間水沢に泊まったが、父の診察もでき
一八一九年(文政二年)におじいさんが亡くなると、いったん水	ないまま江戸へ帰るのである。
沢に帰るが、兄の医学に対する学び方をみて、より一層向学心を書	江戸に戻ると長英は、町医者を開業しながら吉田塾に通い勉強を
き立てられ江戸遊学の思いを強くした。	続ける。ところが、仕事を世話した知人が金銭問題を起こし、その
一八二〇年(文政三年)長英が十七歳の時、兄とともに医者を志	借金を長英が支払うことになり、よその家にやとわれて働き、借金

語を日本語に翻訳する仕事を始める。
言からを引こううとに見てないこり こうしてい たうイアーディントライン 表田 しまで閉じ 新ノで言 多し ジャ
エラに戻ると受英は、潮行に弦を開き、病人を诊察して台寮した
本をよくするために力を尽くすことを決意した。
になる必要がありはしまいか。」迷いの末、長英は江戸に留まり日
動いていた。「日本はここのままでいいのか。国を開いて新しい国
や難病治療の依頼が続くようになった。一方、長英の内心は、揺れ
早く水沢に帰ろうとする長英の心を引き止めるように、講義の依頼
ることにした。長崎を後に熊本・福岡を回り広島へ向かう。一刻も
二十五歳のとき父が亡くなった知らせを受ける。長英は水沢に帰
をする。
シーボルトにまかされて『養生録』全三冊を日本語に翻訳する仕事
翌年長英はシーボルトより「ドクトル」の免状を得る。そして、
史や政治のことなど、世界に目を向けて、たくさんのことを学ぶ。
という先生に出会い、医学のほかにも農業や天文学などの科学、歴
のチャンスで長崎に遊学をする。長崎ではオランダ人のシーボルト
長英が二十二歳の一八二五年(文永八年)親友に勧められ、偶然
診察してお金を得るが、その生活は苦しかった。
を返す。再び長英は、吉田塾に通い勉強に励むと同時に病気の人を

もっていた役人によって長英は裁判にかけられる。そして、「夢物語」	っていること、を教えよる	い上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国が間	い、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話し合	を語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの恨みをか	を助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の様子	語」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した漁民 またのたせ	に対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「夢物	また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の役人	(『救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。	種類・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしく本	が餓死した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいものがこ	も寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの人	いを重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏で	本に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し合
	意外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じくする	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じくっていること、を教えようとして、書いたものであった。し	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じくっていること、を教えようとして、書いたものであった。し上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じくっていること、を教えようとして、書いたものであった。し上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じくっていること、を教えようとして、書いたものであった。し上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの恨み	「外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく、、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話いっていること、を教えようとして、書いたものであった。しいけ送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの恨み助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの恨み」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの国の助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの限み、取り返しのつかないことであることを分からせようと「対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した」を書く。内容は、イギリスの船を打ち払えば、イギリスの限み助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの限み時に登した。 していること、を教えようとして、書いたものであった。しょして、鎖国は良くないことであることから、イギリスの限のかないことになるだろうとし、おだやかに話でいること、を教えようとして、書いたものであった。しょして、	weighter ( weighter ( 「 物売して、 鎖国は良くないことであることを分からせようと 」を書く。内容は、 イギリス人の モリソンが、 嵐で難破した 」を書く。内容は、 イギリス人の モリソンが、 嵐で難破した 」を書く。内容は、 イギリス人の モリソンが、 嵐で難破した 」を書く。内容は、 イギリスの 船を打ち 払えば、 イギリスの 限み 話 いている こと、を 教えようとして、 書いたものであった。 し 、 取り返しの つかない ことになるだろうとし、 おだやかに 話 、 和 り、 万一に も幕府が その船を 打ち 払えば、 イギリスの 限み この した して、 書いたものであった。 し 、 の で い ことで ある ことを すから せようと 「 教売 二 物考』) に 表して 植える ことを す す め て 、 の 長 の で い こと して、 ま た た の に し で あ た で し で し 、 の ま の で 、 の で し て し 、 の で し て 、 の で 、 の で し 、 の で し 、 の た の に し で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 で あ た で し て し て 、 の で し で し で し で し で の で の で し て し て 、 ち で の で し て 、 の で の で 、 の で し 、 の で の で の で し の で の で の で 、 の で し 、 の で っ た の で し の つ か い る こ と て 、 ち と う た ち し で の で の で の で っ の こ し っ た る つ し て の で ち っ た と し て し で し で の で し 、 の で し 、 の で し て 、 の っ の の で の っ で し っ の つ っ し て っ ら と し て っ っ し っ っ こ と っ っ こ し て っ で る っ っ っ し つ つ っ こ と っ ら と し っ っ つ こ っ っ こ っ っ っ ら っ こ っ っ っ っ っ こ っ っ っ っ っ っ っ っ こ っ っ っ っ っ こ っ っ っ っ っ っ っ っ っ こ っ っ っ っ っ こ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく がいっていること、を教えようとして、書いたものであった。し 上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国 たさせ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国 た陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国 た陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国 た陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく 物にした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい れして、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 たきせ漁民を受け取り、報信を与えべきこと、日本の鎖国 上陸させ漁民を受け取り、報信を与えべきこと、日本の鎖国 たでいること、を教えようとして、書いたものであった。し	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく 物した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい なした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい ないここと、を教えようとして、書いたものであった。し かにもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく かにもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく	外にもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく かにもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく かにもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく かにもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じく
蘭学者(オランダの学問の研究を仕事としている人)たちに反感をながらし、		っていること、を教えようとして、書いたものであった。し	っていること、を教えようとして、書いたものであった。しか上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国が	っていること、を教えようとして、書いたものであった。しか上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国が、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話し	っていること、を教えようとして、書いたものであった。しか上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国が取り、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話し語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの恨みを	っていること、を教えようとして、書いたものであった。しか上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国が、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話し語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの恨みを助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の様	っていること、を教えようとして、書いたものであった。しか、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話し語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの恨みを助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の様」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した漁	っていること、を教えようとして、書いたものであった。し上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国時け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの恨み助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの恨みはして、鎖国は良くないことであることを分からせようと「	っていること、を教えようとして、書いたものであった。し上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国時送り届けるために日本に来たことから、イギリスの限み助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの限み時に、 (1)(2)(1)(1)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)	「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。	っていること、を教えようとして、書いたものであった。し 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「な荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「な荒二物考」)に表して植えることをすすめている。	***した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい ***した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい ***した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい	っていること、を教えようとして、書いたものであった。し がした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 『救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 『救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリスのモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリスのモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリスのモリソンが、「キリスの限み でいること、を教えようとして、書いたものであった。し	を重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、 「救売」た。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい 「救売」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「救売」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「救売」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「ないことであることをすすめている。 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリスの船を打ち払えば、イギリスの限み いろーにも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの限み 「ないことになるだろうとし、おだやかに話 いたること、を教えようとして、書いたものであった。し
学者(オランダの学問の研究を仕事としている人)たちに ないよこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じ ないよこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じ かにもこれが幕府を批判したとして長英たちと考えを同じ ないことになるだろうとし、おだやかに に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と して、鎖国は良くないことであることを分からせようと たくて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさ なた、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府 また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府 また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府 また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府 また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府 また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府 また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府 ないことになるだろうとし、おだやかに たくて、 ないことになるだろうとし、おたやかに したさせ漁民を受け取り、 ないことになるだろうとし、おたやかに したして、 まいたものであった。 の間 したとして長英たちと考えを同じ	上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国 に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話 に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話	、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話でした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい のでした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい のでした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 がして、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 がして、道田は良くないことであることを分からせようと「 がして、前田は良くないことになるだろうとし、おだやかに話	語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの恨み いいし、 「救売」の容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した	助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の りけ送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の し、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 「救荒二物考」)に表して植えることを分からせようと「 救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「なご」でもよく育つ早ソバやじゃがい また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「	対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「救売した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいて、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府のまた、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府のまた、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府のまた、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府のす。	また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の役継死した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいも寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの類・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしく類・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしくたが、もでした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいもまでした。している。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し	『救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 繁くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの年重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し	類・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしく餓死した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいも寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんのに取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し	餓死した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいも寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんのを重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し	寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんのを重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し	を重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し	に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し	
中歳の長は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文 「「し」」 「」」」 「」」 「	上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国 上陸させ漁民を受け取り、報償を与えべきこと、日本の鎖国 た た し し し し し し し し し し し し し	、取り返しのつかないことになるだろうとし、おだやかに話れている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。	語り、万一にも幕府がその船を打ち払えば、イギリスの限み いないした。長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化 たまく。内容は、イギリスのモリソンが、嵐で難破した して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 すれて、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 すれて、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 すれて、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 すれて、 がいた。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 した。 たくさん でのたり、 ないことであることを分からせようと「 たくさん でかいたるまでをくわし でのでいた。 たくさん でかいたるまでをくわし でのでいた。 して、 がのでした。 して、 がのでした。 たくさん でかい して、 がして、 たくさん でかい たく たく でん でかい して、 がのでした。 して、 のでののので して、 ない のでし、 ない して、 のであることを ない ない ない して、 ない ない での での での での して、 ない ない での での での での での での での での での での	助け送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の りは送り届けるために日本に来たことから、イギリスの国の して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 なだ」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「救荒」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「な荒」「物考』)に表して植えることをすすめている。 「な荒」「物考』)に表して植えることをすすめている。	」を書く。内容は、イギリス人のモリソンが、嵐で難破した 時間でした。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがい なだこか考』)に表して植えることを分からせようと「 がして、鎖国は良くないことであることを分からせようと「 な荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「水荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「水荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「水荒二物考』)に表して植えることをすすめている。 「水荒二物考』)に表して植えることをすすめている。	対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「対して、鎖国は良くないことであることを分からせようと「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「救荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「な荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「な荒二物考」)に表して植えることをすすめている。 「な荒二物考」)に表して植えることをすすめている。	また、一八三八年(天保九年)には鎖国を続ける江戸幕府の役に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話して敷充した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいも繁くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの舞・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしく類・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしく類・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしくした。長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を	『救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。『救荒二物考』)に表して植えることをすすめている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの寒した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいも満の長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を	類・性質・効用・その栽培・調理法にいたるまでをくわしく餓死した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいも寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんの味した。長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を	餓死した。長英は天候が不順でもよく育つ早ソバやじゃがいも寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんのを重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し十歳の長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を	寒くて稲は実らず、麦も稗も不作で食べ物がなく、たくさんのを重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し十歳の長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を	を重ねている。一八三六年(天保七年)長英三十三歳の時、夏に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し十歳の長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を	に取り入れるために「尚歯会」をつくり、数十人の仲間と話し十歳の長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を	歳の長英は、進んでいるヨーロッパやアメリカの学問文化を

『奥州おもしろ学―ジュニア・テキスト』	『岩手の先人一〇〇人』	『医人 高野長英』	*参考文献	ください。	野長英記念館や高野長英誕生の地(水沢区吉小路)を訪ねてみて	*高野長英についてもっと詳しく勉強したい人は、水沢区にある高
					;沢区吉小路)	こたい人は、北
	岩手日報社	岩渕憲次郎著			を訪ねてみて	小沢区にある高

特定非営利活動法人奥州おもしろ学



高野長英の肖像画(水沢区)